

いまい小児科クリニック 所長 今井博之

(注) この文章には、政府見解とは異なった内容が多く含まれております。今井所長が入手できる海外からの最新報告をもとに、できるだけ正確に、重要な情報をお届けすることを目的としておりますが、時には所長の主観もまじえて書いておりますことを御了承ください。

前回の「No.1」では、「子どもは新型コロナウイルス（COVID19）にはかかりにくく、かかっても重症化しないことが多い。子どもの死亡率は0.1%以下であった」ことを解説しました。

今回は、子どもが新型コロナウイルスにかかったらどういう症状が出るのか？ 普通の風邪と症状はどう違うのか？ 症状でコロナウイルスを疑うことができるのか？ について書いてみました。

新型コロナウイルスにかかった時の症状について記載のある論文をまとめてみました。

1月から直近までに6つの論文があり、文献5が世界初の小児例報告で、文献6がそれに続きます。

	文献1	文献2	文献3	文献4	文献5	文献6
出版日	1月24日	2月13日	2月21日	2月28日	2月28日	3月12日
対象	41人の入院患者	62人の入院患者	44, 672人	1, 099人	10人の入院患者	6人の入院例
年齢	平均47歳	平均41歳	30歳以上が9割	平均47歳	小児例のみ	小児例のみ
小児例	25歳以下なし	2例(10歳, 11歳)	20歳未満965人	15歳以下0.9%	3ヶ月~11歳	1~7歳
潜伏期				4日(2~7日)	6.5日(2~10日)	
発熱	98%	77%		89%	80%(注1)	100%(注2)
38℃以下	22%	58%		41%	40%	0%
39℃以上	34%	13%		12%	10%	100%
咳	76%	81%		68%	60%	100%
湿性(痰+)	28%	56%		34%		
倦怠・筋肉痛	44%	52%		38%		
のど痛			鼻水は無いが、あっても少ない	14%	40%	
のどが赤い				2%未満		
鼻水・鼻閉				5%	20%	
頭痛	8%	34%		14%		
下痢	3%	8%	嘔吐・下痢はほとんど無い	4%	0%	
悪心・嘔吐				5%		67%
呼吸困難	55%	3%		19%	0%	
CTで肺炎				86%	40%	67%
死亡率	15%	0%	2.3%	1.4%	0%	0%
						便にウイルス排出

成人例では、高熱は比較的まれで、38℃前後の熱が4日以上続くようです。普通の風邪と違って鼻水がほとんど出ず、痰を伴わない乾いた咳が特徴です。嘔吐や下痢などの消化器症状はほとんど無く、診察所見でノドが赤くなることはほとんど無いようです。発熱から7~10日たつてから、急に呼吸困難が出現するというパターンが多いと報告されています。

一方、小児では、熱は出ても24時間以内に解熱し(注1)、成人例に比べてノド痛や鼻汁の頻度が一定数ありますが、これは幼い子どもは常から鼻水を垂らしていることが多いからでしょう。呼吸困難もないのにCTを撮ってみると、肺炎になっている例が多いのが特徴的です。肺炎になっていても対症療法だけで自然治癒しており、軽症では診断されずに見逃されている例が多いと推測されています。

文献6も小児例ですが、これらのケースは高熱が続いており(注2)、比較的重症例をまとめたものです。成人では嘔吐や下痢は非常に少ないのですが、小児では嘔吐例があります。子どもはどういう風邪をひいても、体調が悪いだけで嘔吐しやすいのが特徴ですからね。

小児例では、便の中にコロナウイルスが長く排泄されている例がありますので、回復後も便の扱いは気を配る方が良いでしょう。

文献1) The Lancet online Jan. 24, 2020. 文献2) Br Med J 2020;368:m606 文献3) Chinese CDC Weekly Vol.2 No.8 113-
文献4) N Engl J Med Feb. 28, 2020 文献5) Clin Inf Dis J 28 Feb. 2020 文献6) N Engl J Med March 12, 2020